

今年のプロ野球は、上位が独走したり失速したり、最後は接戦になったりと、セ・パ両リーグともとても面白い展開だったように思う。

「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉が流行した頃のこと。「明日の天気予報だって外れるのに、1カ月先の長期予報が当たるはずがないから、税金の無駄遣いをやめた方がよいのでは」という厳しい投書が気象庁にあったという。

毎年、プロ野球の開幕前には、その年の優勝チームの予想が解説者などによってなされる。この場合、予想する人は何月何日のゲームを丹念に予測し、それを集計して優勝チームを予想しているのではない。チームの打撃力、投手力、守備力、選手層の厚さなど、チームの持つ総合戦力を比較して予想するのである。つまり、毎日の試合結果は分からなくても最終的な結果は予測できるのである。

明日のゲームの勝敗を予想する場合には、かなり細かく検討する。これは、毎日の天気予報に相当する。一方、最終的な優勝チームを予想する場合は包括的な立場から総合的

格段の精度向上期待

今月のお題 長期予報

⑦

に判断する。これが長期予報に相当するのである。つまり、毎日の天気が分からなくても、トータルとしての天気の平均状態は予測できるので、長期予報は出せるのである。

投書があった時代から四十年余。長期予報にも数値予報が取り入れられている。また、エルニーニョ現象・ラニーニャ現象に北極振動、偏西風の蛇行にチベット高気圧と新たな現象が続々と解明されている。これらの現象は今のところ結果の検証に用いることが多いが、予測に利用できるようになれば、長期予報の精度も格段に上がるものと期待している。

天気予報は、予報期間の長さによって、「短期予報」(明後日までの天気予報)、「中期予報」(向こう1週間分の週間予報)、1カ月より長い「長期予報」(正確には季節予報という)に大別される。別表で天気予報の種類をまとめてみた。このほか、気象庁のホームページには「天気分布予報」「時系列予報」「海上予報」などが掲載されている。

私たちは初対面の人に会ったとき、顔を見ただけで優しい人、怖い人、人格の高そうなど直観的に判断する。天気図にも人相に似たところがあって、ある程度ベテランの気象予報士になると、一目見ただけで、おおよそのこと

は分かる。暑くなる、寒くなる、風が強くなる、大荒れになる、しばらく晴天が続く、などは直観的に判断できるが、当然難しい天気図もあるし、天気図通りの天気にならないこともある。

いずれにしても天気は自然現象であり、コンピュータの計算がいかに速くなっても、百発百中とはいかないだろう。天気予報を生活に活用し、防災・減災に役立てるには利用する側がかしこくなることも、自然を見くびらないことが大切だと思う。

(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)
※第3週に掲載します。

天気予報の種類

種類	予報対象期間	発表日時	発表内容
天気予報	今日(今夜)・明日・明後日	毎日5時・11時・17時	天気・波・降水確率・最低気温・最高気温
週間予報	翌日から向こう1週間	毎日5時・17時	天気・降水確率・最低気温・最高気温
1カ月予報	発表日翌々日から1カ月	毎週木曜日14時半	1カ月平均気温、第1週・第2週・第3～4週平均気温、1カ月合計降水量、1カ月合計日照時間、日本海側1カ月合計降雪量
3カ月予報	発表月翌月から3カ月	毎月25日頃14時	3カ月平均気温、3カ月合計降水量、月ごとの平均気温、月ごとの合計降水量、日本海側3カ月合計降雪量
暖候期予報	3～8月、夏(6～8月)	毎年2月25日頃14時	夏の平均気温、夏の合計降水量、梅雨時期(6～7月)の合計降水量
寒候期予報	10～2月、冬(12～2月)	毎年9月25日頃14時	冬の平均気温、冬の合計降水量、日本海側の冬の合計降雪量